

復興 ニッポン cha・cha・cha !

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする<支え合い、助け合い、協働>のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの?」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。(※chaは「care」「help」「act」の頭文字) 発行：仙台市災害ボランティアセンター

◆災害ボランティア・スナップ◆

被災者の方を応援するため、1日でも早く普段通りの生活を取り戻していただくため、活動する災害ボランティア。活動の様子を、写真でお伝えします。

津波災害ボランティア活動に役立てるために、水害ボランティアのノウハウが活用されています。



活動する際に気をつけたいことや注意点が丁寧に記されています。



服装や持ち物が、分かりやすく紹介されています。

現場で活動する災害ボランティアの声をお届けします♪

自分が震災を体験したことで、また、テレビや新聞などで震災の映像を見て、「助けたい」「役に立ちたい」そんな一心で駆けつけてくれた災害ボランティアがいます。今回は、被災者支援の現場で直接聞いた彼らの思いや感じたことをお伝えしていきます♪

地震の前日に日本を発ち、僕はインドでこの地震を知りました。こんな時にのんびり旅をしているのだろうか、と悩みましたが、現地の方は「今は帰ってはいけない、祈るんだ」と言います。そんな他人事のように思えない、という思いを抱えながら旅を終え帰国。実家の家族の無事を確認

【ボランティアの声・こえ】

卒業旅行先のインドで震災を知り、実家に戻って活動しています。

しました。故郷の惨事に何か役に立ちたい……。東京-仙台間の往復のバス代は6,000円。これを義援金にすべきか、自分が行ってボランティアをすべきか、と考えました。義援金に寄付をしましたが、やっぱり直接関わりたいと思いボランティアに参加。今日は2日目、避難所の畳を運びました。これって自己満足かな？とも思いますが、来てよかったと思います。今月から社会人の僕は、明日は仕事。今夜11時のバスで東京に帰ります。(男性 20代 東京在住)

復興支援活動のサポート拠点を紹介

●もう一人で悩まないで！解決の糸口はきっと見つかる。

市民団体やNPO・NGOなどの復興支援活動をサポートする拠点が、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）です。仙台市が設置し、せんだい・みやぎNPOセンターが管理運営し、会議スペースの提供、NPOや行政の情報収集と提供、相談の受付などを行っています。

特に紹介したいのは、震災でさらに声をあげづらくなっている方への相談窓口になっていること。人知れず悩んでいる方、自分で問題を認識していない方が周りにおられたら、ぜひご相談ください。10年以上にわたり行政やNPOとネットワークを組んできたノウハウで、悩みに適した支援団体を紹介。解決の手立てが、見えてきます。

■利用案内

期間：3/28（月）～9/30（金）9:00～18:00

電話：022-211-3010

場所：仙台市青葉区一番町四丁目 1-3

■情報発信

サポセン通信『ぱれっと』月刊、

ブログ『仙台市民活動サポートセンター ブログ』日々更新、

市民活動状況『かわら版』4月より週刊予定

■復興支援活動を行うNPOの事例

「小さな子ども、大人に向けたおはなし会」、「心のケア」、「被災マンションの無料相談会」など



市民活動サポートセンターは、地下鉄「広瀬通駅」のすぐ近く。



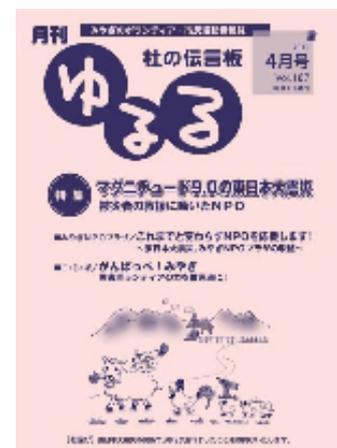
さまざまなNPOや行政の情報が充実。まず相談してみましょう。

復興を支援するNPO・団体を紹介

復興支援活動を行うNPOやNGO、各種団体が宮城県自治会館に集まり宮城県社会福祉協議会を中心に協働運営している「宮城県災害ボランティアセンター」。ここで活動する2つの団体取材しました。

●社の伝言板ゆるる

親しみやすい名称のNPO法人「社の伝言板ゆるる」は、宮城県のNPOや市民活動支援のための、情報誌『月刊 社の伝言板ゆるる』を発行している団体です。出会いや学びの場として宮城県が設置している「みやぎNPOプラザ」



の管理運営も行っています。宮城県災害ボランティアセンターが立ち上がった翌日、3月29日からはスタッフ1名が運営に参加し、情報収集や発信を中心に貢献しています。電話コーナーでは、ボランティア希望者へ情報を提供。協働団体が日々活動している姿が見えるように、HPなどでの情報発信の方法も提案しています。なお、震災を特集した4月号がホームページからPDFで読むことができます。ぜひ、御覧ください。

<http://www.yururu.com/>

●防災科学研究所

防災の科学技術に関する研究開発を行う、「独立行政法人 防災科学研究所」。茨城県つくば市から3日交代で3、4名の職員が来て、常駐しています。連携している中央大学の大学院生と理工学部生の7名も、ボランティアとして活動。その主だった内容は、宮城県災害ボランティアセンターのHP立ち上げ支援と、マップ情報のサポートです。特に被災地で喜ばれているのが、必要な情報をアイコンで記した巨大マップ。通行止め情報や、ガソリンスタンドの位置、各地の避難所やボランティアセンターの位置など、日々変わる新たな情報を随時更新。打ち出された巨大な地図は、被災地のボラセンに張り出されます。



航空写真を住宅地図に重ねて、被災状況マップを作成する防災科学研究所スタッフ。



中央大の大学院生・学部生のボランティアチームは、住宅地図に通行止めなどの情報を入力。



大型印刷機で打ち出される巨大マップ。現場に張り出したとき「おお！」と歓声があがるそう。

～仙台市災害ボランティアセンターからお知らせ～

4/27に津波災害ボランティアセンターを開設しました！

仙台市社会福祉協議会では、各区災害ボランティアセンターのボランティア要請が青葉区、太白区及び泉区においては減少傾向にあり、一方で、宮城野区、若林区においては津波被害に関する要請が増加してきたことを受け、津波被害中心の災害ボランティアセンターを次のとおり運営していくことといたしました。地域住民の皆様およびボランティア活動を希望する皆様は、次の点にご留意ください。

1) 地域住民の皆様へ

■津波被害によるボランティアの要請（泥出し、自宅の片づけなど）は、津波災害ボランティアセンターへご連絡ください。

■津波被害以外のボランティアの要請は、お住まいの区ボランティアセンターへご連絡ください。

2) ボランティア活動をしていただける方々へ

津波災害ボランティアセンターへご連絡、またはお集まりください。なお、状況により津波災害以外の災害ボランティア活動に参加いただく場合もありますのでご了承下さい。

3) 5区の災害ボランティアセンター

(1) 各区社会福祉協議会の区ボランティアセンターに移転。（※連絡先は後日お知らせします。）

■平成23年4月25日（月）に移転



青葉区災害ボランティアセンター、太白区災害ボランティアセンター、泉区災害ボランティアセンター

■平成 23 年 4 月 27 日（水）に移転

宮城野区災害ボランティアセンター、若林区災害ボランティアセンター

（2）上記の他、次のセンターでは、津波による被災地域の復旧支援活動（泥の除去、家屋の片づけ等）を中心にボランティア活動を進めます。

①仙台市北部津波災害ボランティアセンター

■設置場所：元気フィールド仙台・宮城野体育館（仙台市宮城野区新田東 4-1-1）

■電話番号：ボランティア頼みたい方 022-231-1320、ボランティアしたい方 022-231-1326

■開設期間：平成 23 年 4 月 27 日（水）～5 月 31 日（火）* 予定

②仙台市南部津波災害ボランティアセンター

■設置場所：若林区伊在字前通 20-1（荒井土地区画整理地内 10-2BL）（* 仮設のプレハブ）

■電話番号：022-282-0075

■開設期間：平成 23 年 4 月 27 日（水）～5 月 31 日（火）* 予定

（3）各区社会福祉協議会の区ボランティアセンターでは、**従前の災害ボランティアセンターと同様に地域住民の皆様からの災害復旧にかかわるニーズを受け付けし、地区社協、町内会、民生委員児童委員、地域福祉団体、NPO、大学ボランティア、企業、行政機関と連携を図りながら、個別の支援活動に取り組みます。**

※宮城野区、若林区の津波以外の復旧支援活動については、区ボランティアセンターで対応します。

4）仙台市災害ボランティアセンターは、従前のおり情報センターとして運営します。

■開設場所：仙台市福祉プラザ 4 階（仙台市青葉区五橋 2-12-2）

■電話：022-262-7294

5）ボランティアの募集について

現在、仙台市内の災害ボランティアセンター（津波災害ボランティアセンターを含む）では、仙台市民自らの力によって復興を図ろうと、**仙台市民のボランティア（自宅から通えるボランティア）を募集**しております。ボランティア活動を希望する皆様は、災害ボランティア募集の条件をご確認し、必ず電話等により各災害ボランティアセンターの現状をご確認の上、現地にお越しくださるようお願いいたします。



編集後記

被災後一ヶ月の気仙沼を訪ねました。まだまだがれきとゴミが堆積していて、地域によっては集落全部が無くなって言葉も出ません。まるで何もなかったような穏やかな青い海を眺めながら、自然の脅威を改めて思いました。でも気仙沼を見守り応援するように健気に咲き始めていた桜を見つけてほっとしたりもして。自然の仲間は時に厳しく時にやさしい・・・まるで親のようだなと。厳しい現実の中で、それを受け入れ向き合い復興に向けて頑張っている人たちの逞しさに勇気をもらって帰ってきました。私もガンバローっと！（木村津谷子）

発行：仙台市災害ボランティアセンター 広報班 黒田

TEL022-262-7294 <http://www.ssvc.ne.jp/> 当紙がWEBで読めます！

編集：広報ボランティアチーム 遠藤、大谷、木村、佐々木、佐藤、茂木、山田

連絡先：仙台市災害ボランティアセンター Eメール sendai-vc@poppy.ocn.ne.jp

